

地学オリンピック支援委員会

第15回議事録

2020年5月25日

委員長 田中 義洋

期 日：2020年3月29日（日）14：00 - 16：00

形 態：オンライン

出席者：浅野、小泉、川村、芝川、田中、久田、渡来（出席者7名で委員会は成立）

議 題

1. 平成31（令和元）年度の活動報告
2. 第12回日本地学オリンピック予選問題の評価
3. 小学生のための地学オリンピックの総括
4. 令和2年度の体制および活動方針の確認

詳 細

1. 平成31（令和元）年度の活動報告

(1) 委員会を1回開催（第14回：2019年3月30日）

(2) 第11回日本地学オリンピック予選の問題検討

委員会およびメーリングリストでの検討を経て、地学オリンピック日本委員会に「第11回日本地学オリンピック予選 試験問題に関する講評」を提出した。

(3) 小学生のための地学オリンピック「チャレンジ地球」の開催

2019年11月23日に筑波山ジオパーク巡検を計画（雨天中止）し、山陰海岸ジオパーク巡検は12月1日に3家族8名で実施した。クイズ30は同年12月15日の日本地学オリンピック予選時に実施して4名が受験し、得点に応じて金銀銅賞と参加賞の賞状を授与した。

(4) 広報活動

地質学会・山口大会の小さなESのつどいのポスター発表会場にて、日本地学オリンピック予選のポスターを掲示した。

2. 第12回日本地学オリンピック予選問題の評価

芝川委員が作成した問題と教科書との対比に関する分析資料をもとに意見交換を行った。例年と同様に問題数は多いものの、高等学校地学基礎の教科書の記述を基本にした出題内容となっており、全体的に良く練られた問題である。また、高得点者の分布からみても選抜試験の問題としても申し分ない問題である等の意見が出された。

分析資料と委員会での意見や指摘をもとにメーリングリストを通じて検討を続け、5月中旬を区切りとして評価をまとめた。後日、その内容を地学オリンピック日本委員会に書面で提出する予定である。

3. 小学生のための地学オリンピック「チャレンジ地球」の総括

これまでの2回の反省をもとに、青少年科学フェスティバルやJSTサイエンスポータルなどで広報活動を行ったが、参加者数の大幅増には至らず、現状のままでの開催継続は難しいという判

断に至った。ただし、これまでの参加者は科学に対する関心・意欲が非常に高い小学生であることから、このような子供達が地学分野に興味を持ち続けてその道に進んでくれるような次世代の育成は意義深いことであるという共通認識を得た。

今後は、大阪で行われている「こどものためのジオカーニバル」というイベント成功例を参考に、企画立案や財政支援に関して検討することが課題として挙げられた。具体的には、より多くの児童に対して地学への興味を持ってもらえるように小さい規模でのイベントを実施し、地学分野に対して特に強い意欲を持つ小学生を地学オリンピックへとつなげていくような二段階での取り組みや地質学会でも採択実績のある子どもゆめ基金への申請などの検討に関する意見が出た。

4. 令和2年度の体制および活動方針の確認

(1) 委員会の活動方針

委員の変更はなし。地学オリンピック日本委員会からの要請に応じて支援を続け、地質学会内での広報活動を継続していく方針を確認した。

(2) 次回委員会の日程

オンラインを含めた形式で、大学入試共通テスト後から3月末までの期間のち、できるだけ多くの委員の都合が合う日時で開催日を調整する予定である。

以上